

子どもの絵とシンボル(二)



秋山達子

前号にひきつづき、子どもの心理的な成長過程を示していると思われる幼稚園児の絵の象徴について、実例にそつて皆さまといつしょに考えてみたいと思います。

B君は四歳児で幼稚園に入りましたが、情緒面で他の子どもたちに比べると大分遅れていました。それでもなんとか他の子どもたちといつしょに遠足や運動会にも参加して、その年は無事に終つ

て冬休みに入り、楽しいお正月を家で祝つて、また幼稚園でお友だちといつしょに、学んだり遊んだりする生活がはじまりました。

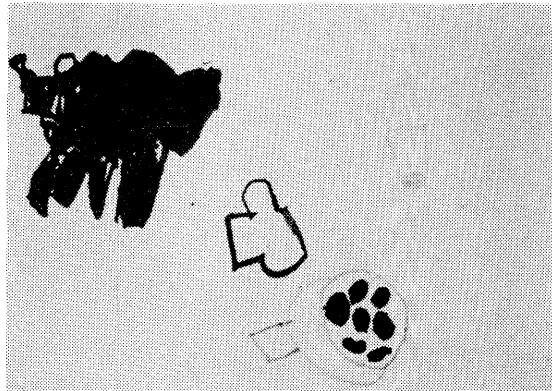
前年の暮に描かれた最後の絵は、左側に描かれた自動車のライトが右側に並んでいるきのこの群を照らしだしているものでしたが、これは今まで他人も自分も区別がつかなかったB君の関心が、はつきりと外の

世界に向かって、周囲の環境と自分のあり方という他と自の関係を意識してきたことを意味するものと思われました。

冬休みの後で久し振りに幼稚園に顔を見せたB君は、今までとはすっかり違つて大変静かになり、先生にもB君がいるのかいないのかはつきりしなかった時もあつたがらいでした。そしてお正月の絵を描きました。ようという先生の言葉によつて、B君は次のような絵を描きました。左上に紺色でいたずら書きのよくななにかよくわからない固まりが描かれています。中央には同じ紺色の線描きでこれも意味のよくわからない形、その下には水色で描かれたおなべの中の紺色のお豆のようなもの、そして右側に水色でコップが一つ描かれています。(写真(參照))。

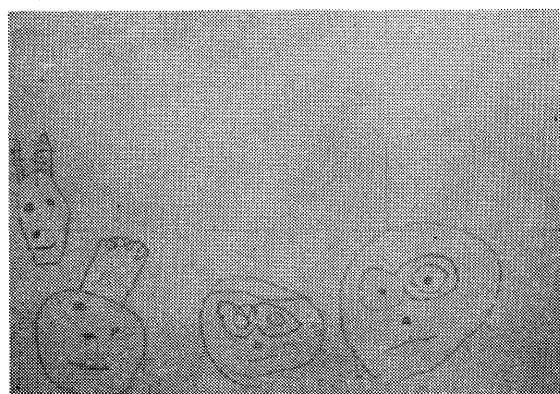
新年から私たちの絵の象徴に関する研究会がはじまりましたので、B君の受持の先生もそれまでの絵をまとめて見せて下さつたところで、B君の入園以来の絵とそれが

写真(-)



描かれた頃の行動などについていろいろと話していたのですが、さて期待しているB君の新しい絵は、急に寒色だけが使われるようになって絵の感じが変わったといふこと、実際にB君がおとなしくなったということの他は、この絵の中にも何も見出すことができなくてがっかりしました。強

写真(=)



いて象徴的に考えれば、おなべのような丸いものの数は七つですが、七というのは内向的で神秘的な数であるということぐらいでした。

その頃からB君は大きなダンボール箱の中に入れてもらつて、隠れたり顔を出したりして遊ぶことが得意になりましたが、また

ものが中段のお面の絵です。左すみの愉

たちよつといったずらをしてみて先生の反応を試してみたり、友だちとふざけあってわざとおどけたふうをして皆を笑わせたりすることができてまいりました。そして描かれ

た原始時代の宗教祭典の遺風を伝えるお神楽には今でもお面が用いられていますし、また古典的な芸能である能や狂言でもお面を使います。

原始時代の宗教祭典の遺風を伝えるお神

楽には今でもお面が用いられていますし、また古典的な芸能である能や狂言でもお面を使います。

また古代ギリシャの演劇にもお面が使われましたが、これをベルソナといいます。このことからC・G・ユングは人が外の世界に向けて見せる姿勢や態度をベルソナと呼んでいます。このように私たちの心と外界との関連にはベルソナが大きな役割をしているようですが、B君も二本角の鬼や愉快なコックさん、そしてめがね猿のようなお面などをいろいろと変えてかぶってみ

て、それが一番具合がよいか試してみているところのようす。

この二つの絵は左側に重点が置かれているようですが、おそらくB君は自分の心の中心をずっと左側の内的な世界においていることを見つめているようです。お面の目は前に描かれたお母さんの絵とは反対に右側が三重丸になっています。

この後に描かれた絵は左の方に大きな電燈が下っていてピカピカと光り、中央にはお面をかぶったような頭でつかちの目の大きい人が手を広げていて、右上に黒く塗った空があり、その中に黄色い月が描かれていました。そしてよく見ると月の左上の黒く塗りつぶした夜の空のところに小さく虫のよう見える太陽がねずみ色で描かれていました。この深夜の太陽の絵はぜひ皆さんにお見せしたいと思ったのですが、真黒いところにねずみ色で小さく描かれていたので、写真にはうまく写らなくて、残念ですがお見せできません。しかしこの絵には、

左側の心の中に電燈がともって明るくなりだしたB君の自我も、外の世界ではまだ母親的なイメージを持つ月の側で闇に呑まれたまま時期を待っているようすと、心の内

と外の間で仮面をかぶった姿がいろいろと調整を試みているところがよく示されています。

この頃から先生方も子どもの絵に今まで以上に関心を持たれて、いろいろと描いてあるものについて質問をして答えを書きこんでおいて下さるようになりました。

この深夜の太陽の絵も、はじめ先生は気がつかなかつたのですが、なにか虫のようなものが描きこまれているので、これはなあにと聞いてみたら、太陽ということで、でも月があつて電燈もあるから夜でしょういました。この深夜の太陽の絵はぜひ皆さんにお見せしたいと思ったのですが、真黒いところにねずみ色で小さく描かれていたので、写真にはうまく写らなくて、残念ですがお見せできません。しかしこの絵には、

はつきりわかることがよくあります。また先生にわかつてもらえるという安心感から子どもの心理的な発展過程を促すことにもなるように思われます。

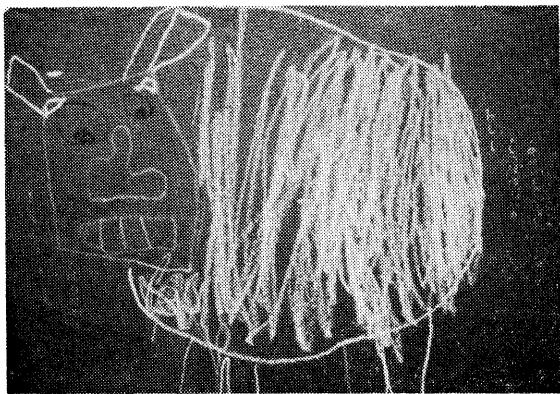
例えば前号では自動車の進む方向について書きましたが、ある子どもの絵に左向きの自動車と右向きのものとが両方描かれていましたので、先生が聞いてみましたら、

こっちへ行くと行きどまりなの、それでこっちへ行つたらまた行きどまりなのといつて困つたよう先生を見上げたそうです。そこで先生も、この頃少し元気がないと思つていたら内にも外にもものびられないような時期だったのかと思ってにっこりしたら、その子どもも安心したようだったといふことです。このように絵を通して先生と子どもの心が通い合うことは大変大事なことと思われます。

この絵に関心を持って、一見意味のないようなものでも、いろいろと聞いて下さるとおもしろい答えがてきて、子どもの気持がお見せできません。しかしこの絵には、

研究会では色の象徴について話し合っていきましたので、先生は皆に好きな色の紙を選

ばせてみました。B君は青い紙をとつてそこに大きなおしの絵を水色で描きました。B君の説明によると、顔は横（正面）を向いていて、鼻はやきもちで、しっぽがないで、中に二人の人が入っているのだそうです。そして口は窓で中から外をのぞいているところだそうです（写真(3)参照）。



写真(3)

私たちもこの絵を見ているうちに、お正月のすぐ後に描かれた絵についてはつと思いまして。あの絵の左上に紺色でいたずら書きのように描かれていたかたまりは、おししだったのです。またそのすぐ右下に描かれていた形は火にあぶられてぱーとふくれたお餅だったのでしょうか（写真(4)参照）。

今度の絵はよく観察が行きとどいて誰にもすぐおしとわかるものですが、母親の話では、B君は本当のおしとは見ていないから多分テレビで見覚えたものではないかということです。お正月のテレビや本の絵にはよくおししが描かれていますから、B君がこれを絵に描いても不思議ではありません。

しかしそう正月は子どもたちの興味をひくものがまだ他にもたくさんありますしその中で特におしに関心を持ち、しかもその関心が一月以上も続いているということは、なにかB君の心の中の問題とおしの

姿に特別の関連があるように思われます。おしも前の絵と同じ仮面の一つですが、お正月以来B君がじっとおとなしく仮面をかぶって、いろいろな表情をしてみせながら外の世界の反応を試していったようですがここにも示されているようです。

またつづけて寒色を使っています。こでは特に青い紙を選んでいます。B君は

外の世界に関心を持ちだと寒色があらわれてくるようですが、今までの暖かく安定感のある自分だけの世界から、見知らぬ外の世界に向かいだした知的な関心を示すものと思われます。またおしの中に二人の人がいるということともおもしろいと思います。子どもはよく自分を二つに分けて良い子と悪い子にして一人芝居をしてみたり、また兄と弟にして教えたり教えられたりして遊びます。また架空のお友だちを作つて呼びかけてみたり、うつかりいたずらがすぎてしまつた時に、お人形を相手に自分

でしかつたりしています。

このような架空の人物やお人形相手の一
人遊びは子どもの心理的な成長に大変必要
なものですが、この場合は二人の人、つまり
B君の心の全部がおししの中に隠れて、威嚇的
な動作をしながら口の窓から外の反応をうかがつ
ているところです。

それにしてもこのおししは実にのびのびと
描かれたすばらしいおししです。一ヶ月程前に
描かれたおしらしの姿に比べて絵もしつかりと
してきています。いくらB君の成長が早いとしても
一ヶ月の間にこんなに絵が上手になつたのはどうしたこ
とでしょうか。お正月以来いろいろとお面をかぶつて行動
している間に、おししのイメージがはつきりとB君の心の中に育つて、こんなにすばらしい形になつてあらわれたものと思われます。そしてお面の中央のやきものの鼻は、お餅がやき上がってふくれるようにはしばらくお面の中にひそんでいます。時期を待っていたB君の蓄積されたエネルギー

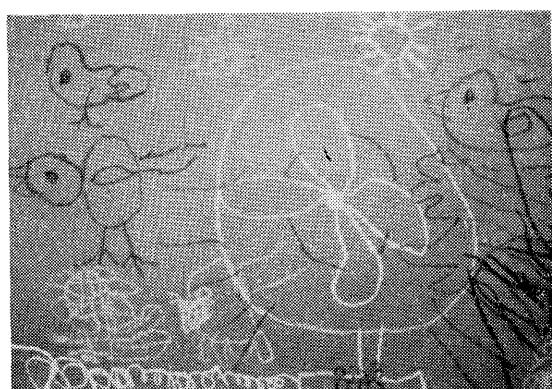
が、心の底から湧き上がるようふくられてきたところを示すものようです。

その次の時にはB君は前とは反対に真赤な紙を選んで、真中に白で大きな扇風機の絵を描きました。扇風機は左すみの心の最も深いあたりから、ぐるぐるに巻いたコイルでつながっています。この絵は二月の一

番寒い頃に描かれたもので暑くてしようがないような絵です。やきもちがいよいよふくれ上がつてはじける一步手前ながらもしません。一番右下には黄色で雪だるまが描かれていて、その上の辺は黒でござごしゃと線が描かれ、右上にはひよこが丸く点線で囲まれています。

B君の説明ではひよこが暑くて汗をかい
ているのだそうですが、ちょうど卵の中
でいる時を待つているところのようです。
右上には夜の闇を右下の方に押しやつてしまつたかのようにはつきりした形の太陽が
白で描かれています。扇風機の左上には亀
がいます。そしてひよこが二匹、上のはま

写真(四)



だ卵の殻をおしりの辺につけてかえつたばかりのようですが、下のひよこは足も二本ついていて元気にピヨピヨとなっているようです。その下におししが扇風機に吹かれ涼んでいますし、その横には黄色いひまわりの花も描かれています(写真四参照)。扇風機は四枚羽根を持った花のようで、真

中に大きく描かれてぐるぐるまわりながら新しく生まれてきたエネルギーのもとになつて、夜の闇を吹きとばし、ひよこがかえりのを助けているところのように思われます。

左側の世界では花が咲き、ひよこはもうすっかり成長しているのですが、右側の方は絵の構図もまだよく整理がつかないで、

右下では雪だるまが黒や青の線にとり囲まれていますし、ひよこは汗をかきながら卵の殻の中で我慢しています。また亀は浦島太郎を背にのせて童宮に案内した動物で、意識と無意識、心の内と外との世界をつなぐ象徴であるとされていますが、ここでは太陽と並んで上方にしっかりと描かれています。

B君の觀察はなかなか細かくて、扇風機の台のところにはスイッチが三つあって、1、2、3と番号までついています。箱庭療法の時にも説明しましたが、三はものごとのはじまるダイナミックな数です。じつ

と静かにしているうちにB君の心の中に育ったエネルギーをもとにして、さあこれから何がはじまるのでしょうか。

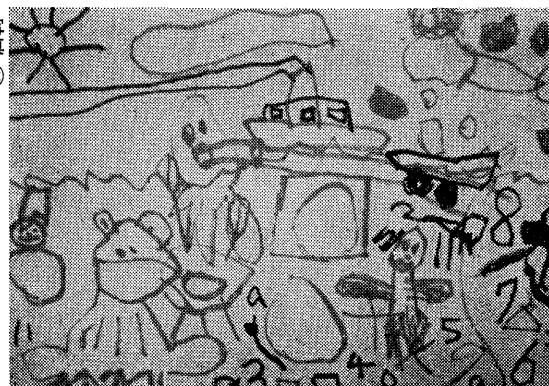
その次の絵には二台つづいた電車が描かれました。B君の説明では電車が暑いので扇風機がまわっているとのことです。（写真五参照）。パンタグラフのようなものが



三月に入つてB君は段々元気をとり戻してお友だちの間でもしきりにおどけてみせるようになって、すっかり皆の人気ものになりました。またいたずらもはじまりましたが、以前のように一人で暴れているのではなく、窓ガラスに石を投げてから先生のようすをうかがつてみたり、しかられて皆の注目を集めることをおもしろがつたりするようになりました。そして描かれた絵は次のようなもので、茶系の濃淡を使って紙面一杯に今にもはみだしようにいろいろなものがあらわれました。

左上には太陽が輝やき右上にはヘリコプターが飛んでいます。海の上にはお船が煙

をたなびかせながら浮き上がつてくるところです。まず一番左には雪だるまがコックさんの帽子をかぶっています。それから大きな蛙が今にも飛び上がるとしているところです。その右にはたこが水面に浮き上がりつてお船を押しのけているようすと、その下にいるのはかにでしようか。お船の



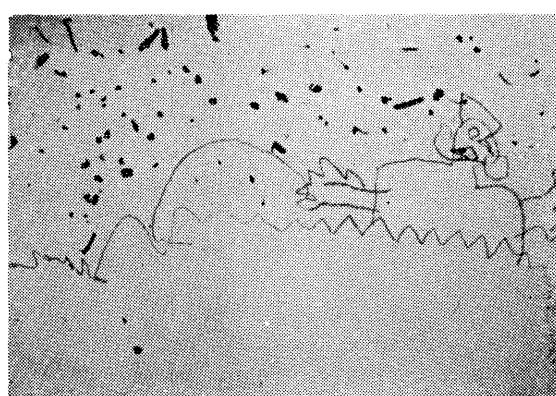
写真(六)

真下には四角に囲まれた円、そしてもう一つの円が描かれ、その右には人がいます。が、足のところに×がついています。右下の辺がまだごしゃごしゃとしていますが、数字がたくさん描かれています。またお船の前に車のついた乗物があつて、車つきの船に先導されているようにも見えます。

(写真(六)参照)。

この絵と前年の夏前に描かれた寒色の海の絵とを比べてみていただきたいと思います(写真(七)参照)。前の絵はやはり海のように波線で上下を分けて、下部からなにか盛り上がりつて来たような丸いものとお母さんのような姿が描かれていましたが、波線から下にはりませんでした。この絵も同じような構図ですが、今度は雪だるまや蛙やたこやその他いろいろのものが、海であらわされている無意識の世界から浮き上がつてくるところです。その中でも蛙は無意識内のものが意識化される時によく表現される象徴といわれていますが、この蛙は

写真(七)



四足を踏んばつて今にも飛び上がりそうに身構えています。

B君の心の内の世界でもまた外の世界でも、ここ一年で経験されたことが蓄積されて次第に形を作りあげ、外界を意識してきたB君がこれらの問題を消化するために三ヶ月程、お面をかぶつて心の中で整理し育

てあげてきたものが、これからはつきりとした形をとつて外にあらわれてくるところでしょう。

そして三月の末、幼稚園での一年の生活
の終わりに描かれた絵は次のようなもので
した。その前の絵が紙面からあふれそうに
一杯描かれていますので、先生は特にB
君のためにセロテープで普通の画用紙を二
枚張り合わせて大きくしてあげました。

B君はその紙面一杯にまず山を描きまし

た。それから山の上に火を描いて火山の爆発だといいながら黒い煙を描き、どんどん噴火しているところを示すためにその上を何度もなぞりました。また山の形をはつきりさせようと二重に線を描き、山の左側に

は四重丸や円や四角を、そして右側には丸い穴のある四角を描いて、そこから右下につづく線を描きましたが、これはB君の説明によると水道の蛇口なのだそうです。また左下には角形が三つ、その上には赤い色で二つの円をつないだバーべルのような

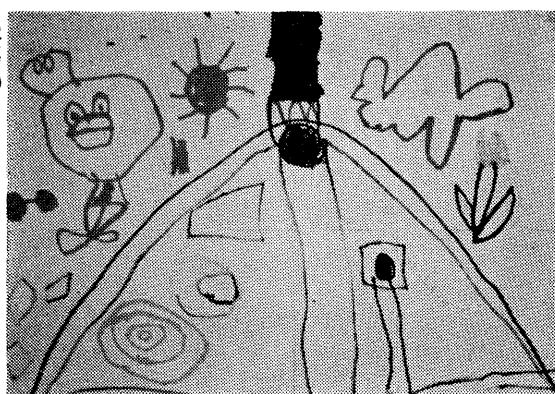


写真
(八)

動物のよきな形の雲とお花を描きました。
(写真⑥参照)。このコックさんの絵には手

がないようですが、それでもとても楽しそ
うな顔をしています。雲もお花のびのび
と空を飛んでいるよう描かれています。
また箱庭療法の時にも説明しましたように

円や角は心の安定をとろうとしているような時によく表現されるものです。

そして何よりも皆さんに、箱庭療法の時の四方先生の扱われた事例を思いだしていただきたいと思います。四方先生の事例では吃音があつて内気なY君が砂箱の中にお山を作り、一度はそれを火山の爆発で崩し、もう一度は水道のホースを山の中腹につきさして滝を作り、そこから本当の水を流して洪水によつて山を崩して成長していくた過程について述べましたが、それとはまったく別のところで別の子どもによって同じような急速な成長の過程が火山の噴火と滝（水道の蛇口）という同じ主題によつて絵に象徴的に表現されているのです。

この二つの例は遅れていた情緒面を急速に発展させつつある心理過程の中で一つの転機を示すものとして考えられる特殊なものですが、子どもたちはお砂や水で遊ぶことが好きですし、お砂場で火山の爆発ごっこをしたり、砂を踏み固めたり、またそこ

ら中に水をまいて洪水にしてしまつたり、

て終わりました。

しめた砂をまるめておだんご作りをする

最初は弱々しい光を放っていた太陽が一

ことは日常の遊びの中にもよく見られるこ

年後にはしつかりと描かれていたよう

とで、幼稚園の先生方にはそれほど珍しい

成長して、皆の人気ものとなり、先生の手

光景ではないかもしません。このような

も、あまりわざわざないようになりまし

遊びはただ子どもたちがどこから覚えてく

た。しかし、もちろんB君がこれまでの情

るものか、どこでも同じようによく遊ばれ

る緒面の遅れをとりもどして大きく成長して

ることとされて今まであまり深い意味が

あるものとは考えられていなかつたよう

ですが、これらの例から考えてみても、子ど

ういの問題が、山積していることでしょう

もの成長には不可欠の大事な遊びであるよ

うです。

B君は幼稚園も休みがちでしたので、一

年間におとなの絵を描きません

でしたが、それでも一枚新しい絵が描かれ

かり忘れてしまつて、ただ無邪氣で何の苦

るごとに、その成長の過程がはつきりと目

に見えるようにあらわれ、特に今年になつ

て受持の先生がB君の絵に関心を持つよう

はたわいのないもので、それが子どもにど

になつてからは、絵の技法も観察眼も急速

に進歩して、B君が心中で育てあげてき

たエネルギーは最後に火山の大爆発となつ

逃しがちです。

しかし毎日の生活の中に常に新しい問題

と直面して急速に成長しつつある子どもの

世界は、あるいはおとなとの世界よりもはる

かに難しく悩みの多いものかもしれません

。子どもはこれらの難問を心の中に住む

架空のお友だちや幻想の人物と相談した

り、争つたりしながら、火山の爆発や洪水

のような心理的な経験を繰り返して一つ一

つ解決し成長していくのです。

私たちとは子どもの遊びや絵や創作などに

みられる象徴的な表現の中から、わずかに

子どもの住むお伽の国の世界の一端を知る

ことができますが、このように子どもの持

つ不思議な幻想とその世界を理解しようと

することは、もちろんそのすこやかな成長

を助けるために大きな意義があることと思

いますが、また同時に忙しい現実の生活に

追われて休む暇もない私たちおとな的心に

も豊かさなどいやかさを与えてくれるもの

とも思います。